三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

それぞれの職場に密着した教宣活動の充実・強化をかちとろう

日刊 動労千葉

82・5・8

No.1038

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

4/30 全支部教宣部長会議開かる

4月30日、被爆写真パネルが展示された動力車会館において、各支部教宣部長会議が開かれ、教宣活動強化にむけての学習が行なわれました。

会議は桜沢特執の座長により始められ、あいさつに立った関川委員長は、「『日刊動労千葉』が正しい理念を伝えて3年になる。今日、国鉄当局による既得権剝奪をはじめとする国鉄労働運動解体攻撃が激化するなかで、教宣活動の役割はその重要性を増している。組合員に理解してもらうことが教宣部の任務であり、本日は充分に学習・討議を深めてほしい」と述べました。

「とりまく情勢」「反戦・反核・三里塚の闘い」について、＝片岡教宣部長が提起＝

つづいて片岡教宣部長から「国鉄をとりまく情勢」と「反戦・反核闘争、三里塚二期着工阻止闘争」についての提起をうけました。

教宣部長は「本社は6月人事総入れかえを行ない、いよいよ国鉄労働運動をのきつぶす攻撃にふみきろうとしている。6月は国鉄にとって大転換期である。千葉局は3月23日に転場規律についての申し入れを行ない、既得権を〝ヤミ協定・悪慣行〟ときめつけ、5月1日からの一方的破棄を迫ってきている。こうした攻撃に対し、国労は右往左往し、動労『本部』に至っては鉄労と一体となって、否それ以上の醜悪さで当局の先兵となって既得権返上＝自主規制、『働こう運動』を提唱し、動労千葉破壊攻撃を強めている。権力による『3・13ゲリラ』を口実とした不当家宅捜索や、『本部』派・小川建二のデッチあげタレコミによる出頭命令に見られるように、権力・動労『本部』革マル一体となった、動労千葉破壊攻撃の激化は必至であり、国鉄労働運動解体攻撃と対決し、反撃にたち上り、動労大改革を攻勢的に闘いとろう」と提起し、同時に、二期着工攻撃の凶暴な強行が急迫している三里塚現地情勢に触れ、「反戦反核闘争の真の実践的基軸として、三里塚二期攻撃粉砕を全力で闘い、強化しよう。三里塚＝国鉄を2大基軸に闘おう」と基調を提起しました。

5・23反核集会に全力結集を

さらに「レーガンの戦争政策は全世界を核戦争の恐怖のなかに叩きこんでいる。日帝は全面的にこれを支持し、軍事大国化・改憲の道をつき進んでいる。反戦・反核闘争と三里塚軍事空港粉砕・二期着工阻止の闘いの爆発こそが、これと対決できる力ギだ。5・23反核東京大集会への全力結集と5・24三里塚現地集会の連続闘争をかちとろう。」と訴えました。そして、そのために現在各支部を巡回展示中の「反核・被爆写真パネル」、教宣部発行の「職場討議資料」（NO・1＝国鉄問題、NO・2＝反核闘争にむけて）を職場で徹底活用するよう提起し、確認しました。

「組合員理論武装」「支部情報」強化を確認

昼食をはさんで、午後からは、教宣活動強化にむけた各支部教宣活動の報告・点検と、桃園紙づくりについて学習しました。各支部の教宣部長から、桃園紙づくり、掲示の書き方、『日刊・動労千葉』の配布、各支部通信員からの記事、等々の苦労話や教訓などが出され、さらにニュースづくりの学習を行ないました。

今日、マスコミ・政府自民党等からの「ヤミ・カラ・国賊」キャンペーンによる、国鉄労働者への攻撃が集中するなかで、敵の攻撃に反撃できる理論武装の強化が一人一人の組合員に求められています。その糧となる教宣活動の充実、強化をなんとしてもかちとらねばならず、その任務が、本部教宣部と各支部教宣部に課せられています。

会議は、最後に当面する具体的教宣方針として、①、最低月一回の支部独自の桃園紙の発行と学習会の設定。②、ワッペンの全組合員徹底化、を全支部で実践し、その責任を各支部教宣部が担いぬくことを確認して終了しました。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！